

松嶋夜話 卷之下 50

〔原文〕翌早合火受三歸戒

〔訓読〕翌早、合火、三歸戒を受く

※合火…人名？

〔原文〕登時起廳登路次

〔訓読〕登る時に、廳を起きて路次に登る

〔原文〕北東往數里

〔訓読〕北東に往くこと數里

〔原文〕有城址數箇所

〔訓読〕城址數箇所有り

〔原文〕是昔日熊谷馬之允一族七頭之舊跡也

〔訓読〕是れ、昔日の熊谷馬允の一族の七頭の舊跡なり

〔原文〕此牙城之上有小沼

〔訓読〕此の牙城の上に小沼有り

〔原文〕昔日無滴水

〔訓読〕昔日滴水無し

〔原文〕城主有願力申于天

〔訓読〕城主願力有りて、天に申(いの)る

〔原文〕一朝之間涌此水

〔訓読〕一朝の間に此の水涌く

〔原文〕至于今其水不涸

〔訓読〕今に至って、其の水涸れず

〔原文〕從是此山此所曰今朝沼

〔訓読〕是に従り此の山此の所に曰はく、今の朝の沼と

〔原文〕今之氣仙沼郷此轉誤之卿談也

〔訓読〕今の氣仙沼郷は此の轉誤の卿談なり

〔原文〕從氣仙郡隔羅人民言誤云

〔訓読〕氣仙郡羅を隔てるにより、人民言いて誤ると云う

〔原文〕從爾捐東攀躡大山

〔訓読〕爾れより東を指して、大山に攀躡す

〔原文〕曰之太多超

〔訓読〕之を太多超（たたごえ）と曰ふ

〔原文〕上下三四里許登而息駕於山棟

〔訓読〕上下三四里許登り駕を山棟に息（やす）めて

〔原文〕顧四方氣仙郡群山一面彌布

〔訓読〕四方を顧みるに、氣仙郡の群山、一面に彌布す